

HAPPY NOTE を活用して

～ 生徒の語彙力向上へ ～

宮崎第一中学校

教諭 松ヶ野 伊代

1、はじめに

子どもたちにとって難しそうで、とっつきにくい新聞。そういう新聞を、国語力を上げるために「とにかく読みなさい」と言っても、子どもたちにとって意味のある活動にはならない。どうしたら新聞が身近なものになるかずっと考えていた。

担任一年目、入学して間もない生徒たちは、「思っていることを表現できない」「相手に分かってもらえない」といった戸惑いの顔を見せることが多々あった。この自分の思いを伝える表現力は、生きていく上で必要なコミュニケーション能力そのものである。そこで、以前から活用したいと思っていた新聞と、「表現力の育成」を結び付ける試みとして、このハッピーノートを思いついた。

新聞は、政治問題や経済のしくみ、県内、国内で起こっている時事問題など、いろいろな情報が詰まっている宝箱。徐々に世の中の出来事についての知識も深まり、生徒同士の会話もより豊かになっていった。新聞記事は「なぜ」「どうして」といった子供たちの好奇心を引き出し、自ら課題を見つけ、いろいろな立場でものを考え、判断する力を培うための最高のテキストだ。自分の意見が持てるようになると、それが「みんなに伝えたい」という気持ちとなり、表

現力の育成にもつながっていく。取り組みから一年、宝探しが大好きな子どもたちは、新聞記事から、両親への感謝の気持ち、友達への思いやり、生きていることの喜び…

たくさんのことを発見し、教科書では学べない道徳的な心情まで自分たちで育て始めた。

ハッピーノートが、生徒の学力を伸ばすだけでなく、真の仲間作りにつながり、その仲間とともに大学受験へ向かう原動力、さらには生きる力になればと思う。

2、実践内容

1 学年

1 学期

・字数制限を決めずに、自分の好きな新聞記事を選び、自由に感想を書く。

2 学期

・人が選んだ新聞記事に対しての感想を書く。

・人が書いた感想に対しての自分の意見を書く。

3 学期

- ・政治・経済・スポーツ・時事・宮崎・世界・道徳・自由 とジャンルを分け、記事を選ぶ。
- ・大学ノートではなく、原稿用紙を使う。
- ・人が選んだ記事に対して、自分の意見を 200 字で述べる。

2 学年

1 学期

- ・政治・経済・スポーツ・時事・宮崎・世界・道徳・自由 とジャンルを分け、記事を選ぶ。

2 学期

- ・人の意見と違った視点での意見を書く。

3 学期

- ・自分の意見と別の立場での意見とをまぜて 200 字でまとめる。
『自分の意見+(確かに)…+(しかし)自分の意見の強調』

3 学年

1 学期

- ・自分の意見と別の立場での意見とをまぜて 200 字または 400 字と字数制限の幅を広げる。
『自分の意見+(確かに)…+(しかし)自分の意見の強調』

2 学期

- ・具体例を入れて 400 字で表現する。
『自分の意見+(確かに)…+(しかし)具体

例+(従って)自分の意見の強調』

3 学期

- ・具体例を入れて 400 字で表現する。
『自分の意見+(確かに)…+(しかし)具体例+(従って)自分の意見の強調』
- ・週末は実際の高校入試、大学入試小論文過去問題(低レベル)に挑戦する。

3、最終目標

- ① 文章表現に対する抵抗をなくし、大学入試小論文にも対応できる力を養う。
- ② いろいろな分野に目を向け、知識を得ることで進路を考えるヒントとする。
- ③ 読解力、表現力、知的好奇心を身に付け、すべての教科の学力向上につなげる。
- ④ 自分と異なる意見を持った他者の考えを理解し、よりよいコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことで人間性の成長につなげる。



取り組みの様子が宮崎日日新聞に掲載

23 年 5 月 28 日付